

第四十八回通常総会 卒業式

四月二十四日(水) 会場 川口駅前市民ホール フロント

平成最後の通常総会、卒業式が開催された。「挑戦こそ成長、ベスト未来へ」を掲げた二年間の二瓶年度から原年度へと移行し、新たなスローガンと共に「NEXT STAGE」が幕を開ける。

平成三十一年四月二十四日(水)に川口駅前市民ホールフロントにて第四十八回通常総会・卒業式が行われた。

二瓶年度から原年度へ移行し、「NEXT STAGE」をスローガンに新たな取り組みを推進する。

総会には八十名のメンバーが出席し、委任状を含めると百十五名で過半数以上出席となり、規約に則り無事に議事を開

催する事ができた。総会議題である平成三十年事業報告・収支決算、二〇一九年度収支補正予算案は塩川議長により滞りなく進行し、すべ

て承認された。総会中の議事後では昨年度の各委員長からも一年間を振り返った挨拶が行われ、全委員長・委員会でそれぞれ新たな取り組みへ挑戦した事が話された。全委員長の表情が晴れやかだったことから、挑戦したことで多くの成果も得られたのだろう。



「二瓶直前会長から原会長への単会旗の継承」

卒業式 二次会

「カメラマンの瞳に映った川口YEGの絆」

「卒業生入場！」拍手と歓声の中、卒業生十一名が会場へと入場し卒業式が始まった。

二瓶直前会長から原会長へと単会旗の継承が行われ次の代へ。そして川口YEGを支えていた卒業生の証書授与式が行われた。

卒業式といえば証書授与がメインイベントと思われるが、川口YEGの卒業生はそれでは終わらな

かった。卒業生十一人が集まり登壇し、一人一人が思い出を言葉にして振り返る



「別れの言葉」が始まった。小学校の卒業式で行われる在校生や保護者に向けて一人ずつ大きな声で思い出を伝える卒業式の名物だ。「僕たち」、「私たちは」、「私たちは」どの卒業生も始めは照れがあったが次第に同年代だからこそ一体感が表れてきた。「夏!」「秋!」季節毎に思い出を発し、小学校では感動し涙するイベントではあるが代わりに会場全体が大きな笑いに包まれた。「卒業生退場!」青年部の仲間達が二人一組で向き合い互いに手をつかみ、トンネルに見立てその輪を潜り抜け退場する卒業生を見送った。二次会会場では、壁や床が養生シートで覆われていて、名前が書かれたルーレットが設置されていた。明らかに何かしらの汚れイベントが始まるであろう、その

ためスーツからシャージに着替えた潔い卒業生もいた。
付け加えるとルーレットには、ほぼ卒業生の名前で埋められている。
必然的に卒業生が当たり周りから炭酸水をかけられ、パイ投げ(食べられません)を顔に投げつけられる。

スーツの人も女性も卒業生でもない人も生クリーム(偽物です)まみれに。
二次会撮影しなくて良かったと心底思ってた(笑)

パイ投げブース以外でも大いに盛り上がりを見せた。
卒業生への見送り、これも思いやりの一つとしてそこにはYEGメンバーの絆の強さが見えた気がする。
総務広報委員会
菊池一太



新委員長の皆様方



卒業おめでとうございます。

卒業生
木倉 藤倉 田崎 田津 橋原 筋野 川々 沼田
青朝 旭 伊 柏 亀 駒 柴 嶋 関 高 竹 竹 仲 永 平 間 柳 山
良 正 樹 伸 恭 昭 一 郎 博 次 人 二 郎 博 志 弘
徹 明 始 幸 広 邦 裕 玲 正 真 太 善 清 輝 広 太 和 安 晃

振り返りますと二瓶会長時は二期二年間、「挑戦こそ成長」「ベスト未来へ」をスローガンに、OBと交流を深める「地域別ブロック部会」や地域の新たな観光資源の創生と経済の活性化を目的とした「シティプロモーション特別部会」の創設など、果敢に挑んだ二年間でありましたが、この二年間で何事にも恐れずにチャレンジすることの大切さを改めて学ばせて頂きました。
そして、時代は「NEXT STAGE」へと続きます。私たちメンバーは原会長の下、次世代を見据え思い描いている新しいステージに向かって邁進します。原会長時も楽しみたいと思います。
また、先日行われた卒業式では、担当された橋委員長率いる市民祭り委員会の皆さまのおもてなしにより、卒業生の皆さまも大変喜ばれたのではないのでしょうか。卒業式、二次会と大変お疲れ様でした。 合掌
総務広報委員会 委員長 江連 俊隆



遅れましたが例会お疲れ様でした。
市民祭り委員会がたった一度の会議でこれだけの設備が出来た事皆様の知恵と協力があったが無事終わりました。誠にありがとうございます。
一息つきたい所ではございますが、我々市民祭り委員会は次の例会であるたら祭りに向かって頭を切り替え考えていかなければなりません。
全メンバーの皆様楽しんでご参加いただけるよう市民祭り委員会は全力で頑張っていきたいと思います。
最後になりますが、卒業生の方からこんなお言葉を頂戴しました。最高に楽しい卒業式ありがとうございました！市民の皆さんありがとうございました！次もみんなで頑張ってください！ありがとうございます。

市民祭り委員会 委員長 橘信之

第一回 川口花火大会

令和元年五月十八日、第一回川口花火大会が開催された。「人とまちを笑顔でつなぐ」をテーマに六十年ぶりに復活した花火大会であったが、開催に至るまでは苦難の連続であった。開催の裏に秘められた汗と涙のストーリーを高倉理事の渾身のルポで振り返る



花火大会から遡ること約1年、センタービル8階会議室には、主だったYEGメンバーが集まっていた。そこで、渡邊は赤羽花火大会の共同開催が難しくなったことを説明した。これからどうしようか・そんな中、どこからともなく「じゃあ、俺たちだけで打ち上げればいいじゃないか」という声が上がった。今思えば、深く考えない発言だったのだろう。だからこそ、「川口花火大会」という新しいチャレンジが生まれた。俺たちの手で花火を打ち上げる、その甘美な響きに異を唱える

者には、誰もいなかった。しかし、美しい薔薇に鋭いトゲがあるように、夜空に咲く大輪の花火にも厳しい現実が待ち受けている。まず直面したのは打上場所だった。当初予定していた野球場の端は、ゴルフ場に隣接しているところから不可能となっていた。ギリギリの交渉を繰り返し、二転三転することが決まった。花火業者・設営業者の選定にも頭を悩ませた。花火大会を見に行つた者はいても、運営した経験のある者はいない。鴻巣商工会青年部、戸田市役所など、大きな花火大会を主催している団体に足を運び、話を聞いた。神明の花火、このす花火大会の開場でも主催者としての目線で大会開場を見た。夏になると、市も前向きになってきた。何もかも手探りだったが、すこしずつ「川口花火大会」の輪郭が浮かび上がってきた。

9月。渡邊は関東ブロック大会のプレ分科会に参加するため船橋にいた。そんな中、一本の電話が入る。川口警察署に提出した警備計画が、一蹴されたとの報告があった。警察の折衝に当たっていた笛木から「話にならないと言われた」と報告を受け、警察の要求する警備を実現するには、億に近い金がかかると言われた。目の前が真っ暗になるような衝撃を受けた。

それからは、警察との協議の連続だった。どの範囲、どの時間、どれくらいの人数を配置すべきか。知恵と、度胸と、忍

耐を総動員して妥協案を探した。花火に関わる多くの人々を巻き込み、もてる力を総動員して、警備計画を作り上げた。責任者である笛木が



ら警備計画承認の報が伝えられたのは、令和の足音が迫る4月だった。警察だけではない。国交省や消防の許認可、ボランティアスタッフの募集、近隣住民の説明会、水上規制の協力、照明の手配、飲食店プースの誘致・上げればキリがないほどの課題があった。だが、YEGメンバーそれぞれが、自身の得意分野を活かし、克服していった。異業種団体であるYEGの真価を感じたときだった。



嬉しい誤算もあった。チケット販売である。駅頭でのピラ配りや手売りも覚悟

数千万に及ぶ花火大会を開催するには、協賛金の存在が不可欠だった。親会やメンバー全員を巻き込み、たくさんの協賛金を集めた。協賛金は集まらないだろう、との声もあったが、結果的には予想を大幅に上回る協賛金が集まった。ただ、無理をしたのも事実で、来年の協賛金集めには課題を残すことになった。

していたが、販売責任者佐野の活躍もあり、大会1ヶ月前には完売してしまつた。最上位のA席などは、販売開始から数時間で蒸発する勢いであつた。



令和が始まると、週間天気予報から目



が離せなくなった。最初、5月18日の天気は「曇のち雨」だった。しかし、本番が近づくとつれ、「曇」に変わっていった。大勢のメンバーと一緒にやって設置した16日、17日には、初夏にふさわしい快晴が続いた。

5月18日、少し雲の残る荒川土手に、多くのYEGメンバーが集まった。「人と街を笑顔でつなぐ」川口花火大会の始まりだった。副委員長の大隅と本部テントに陣取り、花火大会開始までの準備を整えていった。



そんなとき、渡邊の手を引く男がいた。直前会長の二瓶である。朝からずっと本部席に缶詰となっていた渡邊に、土手の上から会場を見るよう誘った。責任者が本部テントを離れるのは少し気が引けたものの、会場全体を自分の目で見たほうが良いとも思い、走って土手を登った。目に写ったのは、土手を埋め尽くす幾万の人だった。荒川の土手でこれだけの人を見るのは、生まれて初めてだった。

「ここまでやったんだ」誇らしい気持ちになると同時に、これから始まる花火への期待を感じ、気合を入れ直した。

18時30分。御成道コンシェルジュ佐藤はるなのナレーションと共に、オープニング花火が打ち上がった。矢作・江原という若いメンバーが、クラウドファンディングという新し

い試みによって集めた資金で上げた花火だ。明るさを残す荒川の空に、金色の花が開いた。続いて、初午太鼓が鳴り響き、太鼓をバックに花火が上がった。スピーカーから迫力のある音楽と共に花火が打ち上がる頃には、すっかり暗くなっていた。迫力のある花火がある度、会場からは歓声が上がった。



そして、フィナーレ花火となった。ナイアガラのはるか天空に、最後の花火となる4輪の花火が上がった。両耳につけたトランシーバーからは、途絶えることなく「エリマネシャヤ」からトラブルの報告が入ってくる。とても花火を見ている余裕などなかったが、最後の花火はと思いに焼き付けた。ふと前をみると、二瓶と会長の原が抱き合っていた。二瓶の目には、光るものがあった。ああ、ベスト未来に向けた挑戦は、とうとうネクストステージに至ったのだ。渡邊の感慨は、トランシーバーから聞



こえる、白石の切羽詰まった声によって中断されてしまった。数日後、渡邊は1人土手の上にいた。最後の撤収作業を見届けるため、花火のBGMを聞きながら待機していた。初夏どころか夏を彷彿とさせる日差しに照らされた土手には、大会会場の面影はなく、普段どりの姿に戻っていた。なにか現実感がなく、夢を見ているようだった。



「笑おう。たとえ壊れそうになっても」
When There Are Clouds In The Sky You Will Get By
「空に雲が広がるように、なんとかなるのだから」
ファイナーレ花火のBGM、「Smile」が聞こえた。川口花火大会は、「笑顔」によって乗り越



えてきた。人と街を繋いだだけじゃない。俺たちも、笑顔で頑張ってきた。挫けそうになったこと、潰されそうになったことは、何度あったかわからない。でも、この歌のように、笑顔で乗り越えてきた。そう思うと、涙が止まらなかった。
多くのYEGメンバーと力を合わせ、第一回花火大会を実現できた。その花火



大会が伝統となり、いずれ後輩達が花火大会を継続していく事を心から願う。そして後輩達による「自分たちが始めた花火大会」をYEGの仲間達と鑑賞する日が、今から楽しみで仕方なかった。
総務広報委員会
理事 高倉光俊



五月十七日(月)に川口商工会議所第23回会員親睦ゴルフ大会が、千葉県野田市の紫カントリークラブにて開催された。夏日のような陽気の中、商工会議所会員、川口YEGOB、現メンバーの百三十名が参加し、親睦を深めた。YEGメンバーでは未来ネットワーク委員会所属の青木祥禎さんが八位と健闘された。

川口商工会議所 第23回会員親睦ゴルフ大会

こんなに大きな白紙のキャンパスに絵を描くことがあるだろうか？不安というか、雲のない空をみているような掴みどころのない不思議な感じでした。
地域の新しいイベントを作り上げること、それは地域経済や観光資源の創生という観点から必要なことで、だからこそ取り組んでみました。
結果としてこの企画を経て自身のスキルや考え方に大きな変化（それが成長になったかは自分ではわからないけど）が出来たことに、改めてYEGの存在意義を感じました。
初めての大事業に、本気で突き進んできた仲間から敬意と感謝を申し上げます。
そして、これから永く地域に愛される事業として、川口YEGが進化しながら次代に継承していくことを強く願います。
シテイプロモーション特別委員会 委員長 渡邊洋介

花火大会を終えて

編集後記
まるで初夏を思わせる陽気が続いていきます。先日は梅雨入りの前兆のような大雨も降り、いよいよ夏へと季節が移り変わります。
先日の総会、卒業式では誠にありがとうございました。私自身総会は三回目ですが参加する度川口YEGとしての自覚を新たに、身が引き締まる思いとなります。
卒業式は昨年の総務広報委員会から、今年から市民祭り委員会の担当となりましたが、橋委員長を始めとする市民祭り委員会の皆さんの素晴らしい設営、進行のおかげで笑いあり涙ありの素晴らしい卒業式になったのではと思っております。
そして極め付けは卒業式後の二次会です。まるで部活動の引退の際の追い出し稽古を思わせるような笑、パイ投げ、ピートル掛けに会場は大盛り上がりとなりました。
た。菊池カメラマンのコメントにもありますように、より一層川口YEGの絆が深まったのではないのでしょうか。
そして花火大会は皆様お疲れ様でした。「笑顔」をテーマに川口YEGが一丸となって取り組んだ、かつて無い規模の例会でしたが無事成功に終わり、地域の皆様方も大いに喜ばれた素晴らしいものになったと思っております。中心となって尽力されました渡邊委員長を始めとするシテイプロモーション特別委員会の皆様方には心からお礼申し上げます。本当にお疲れ様でした。
そして今回YEG新聞を作成するにあたり、記事の執筆等ご協力して下さいました皆様には心から感謝しております。至らないところもありませんが無事に編集を終えることができました。次号もよろしくお願います。
総務広報委員会
清水信守

